

■日野市の教育方針 <世の中と結びつきながら> ○“いのち”を感じ“いのち”を伝えあい 生きるよろこびあふれる 明日へ ○みなが参加し とともに知恵を出し合い 新たな創造へ ○地域の中で学び・活動する 地域が ステージの学校教育	■本校の教育目標 一、みずから学び真の学力をつけよう 一、豊かな心をもちみんなと協力しよう 一、からだをきたえ健全な心身をつくろう ■生徒に育成したい基本心情 「頑張るときはいつも今」「大切にしよう素直な心」 「感じよう人の役に立つ喜び」 ■高めたい資質、育成したい力 ・学ぶ意欲 ・読み解く力、対話する力 ・思考力判断力表現力
○学校教育の果たす役割 学校とは共同生活を通して共に感じ（＝共感）共に育ち（共育）共に生きていく（＝共生）力を育む場である。共感は豊かな心を涵養し、共育は自他の成長を促し、共生は助けあって生きていく素地を培う。教育とは、子ども自ら成長する力（＝自立）を培う営みである。義務教育とは人間としてより良く生きるための基礎的な力を培うことにある。一人一人の子ども達が、将来に夢や希望を抱き、自らの可能性に気付き、その伸長を図り、自己実現をするためにたくましく生きていくための力（不易＝知育・徳育・体育）を身に付けさせる。	○職務遂行の基本スタンス かわいがることは、甘やかすこと、手をかけすぎることではない。困難を乗り越えるエネルギーの基となる安心感・信頼感を与えながら、鍛えることである。又、規律のない自由は放任であることを押さえる必要もある。その上で、<u>つながりを大切にし</u>「実社会に生きる・生かせる学力」を目指し【本物の体験】【感動体験】【鍛える】視点を大切にし、温かく包み込む指導を基盤にしてよりよく生きようとする生徒を育成する。
第3次日野市学校教育基本構想と三沢中での推進の方向性	
(1) すべての“いのち”を守り、育む ①感染症対策の徹底と教育活動の充実の両立を図る。制限のある中で、できることを考えさせる支援を徹底し活動の充実を図る。 ②人権教育及び心の教育の充実を図り、人それぞれの個性の違いや多様性を認め合う心を育成し、いのちの大切さについて取り組む。生徒会サミット等を継続し、生徒が発信する“いのち”の取組みの充実を図る。 3年生はがん教育の授業や小児医療センターから講師を招聘して「いのちの授業」を実施し、2年生は障がい者理解教育、1年生は認知症講習会を実施して命について考える。更に全学年では、自ら命を守る取り組みとして、SOSの出し方教育を実施する。 ③生徒の基本的な生活習慣、規範意識の向上を目指し、生活指導の充実を図る。学校いじめ対策委員会を中心に方針を周知し、生活状況調査を活用して計画的に行う。	
(2) 一人一人を大切にされた多様な学び ①基礎的・基本的な知識や技能の定着と向上を目指すとともに、主体的に学ぶ力の向上を図る。個別指導・指導体制・評価方法の工夫改善を行い、主体的・対話的で深い学びを通した「思考力、判断力、表現力等」の育成の充実を図る。また、各教科等において言語活動の充実とコミュニケーション力・対話力の育成を図り、協働的な問題解決学習を進める。（多様な学び） ②一人一台の端末を活用する授業等の充実を図り、分かりやすい多様な学びができる授業づくりを進める。また、ひのスタンダードに基づくユニバーサルデザインの視点による環境づくりと指導法の工夫改善を更に進めていく。 ③生徒・保護者・学校との連携を深め、生徒理解の充実を図り、温かい学級・学年づくりに努めると共に受容的な姿勢での教育活動を推進する。教育相談部会や特別支援コーディネーター・スクールカウンセラーと組織的、計画的に連携し特別支援教育体制の充実を図る。ステップ教室、リソースルームの充実を図る。両教室の支援方法の般化に努める。新入生を含む全ての生徒がより早く、よりよく中学校の生活に適応できるための取組みや全員面談の実施を進め、不登校や登校渋りの早期発見・対応に努める。（特別支援教育の充実） ④全職員が、がんばルームについて理解し、主体的にがんばルームに関わり、支援の充実を図る。 （不登校生徒への対応や生徒の居場所作り） ⑤本物体験、感動体験、鍛える（アスリートの体験講話及び直接指導を実施する。）	
(3) 地域をステージにした教育活動 ①生徒の学びの成果の地域での発表等、生徒発の地域とのつながりを大切にされた取組みの充実を図る。 ②学校・学年行事を中心として地域の教育力を積極的に活用し、地域密着型の教育活動を推進する。 ③総合的な学習の時間をはじめ、学区内の小学校との様々な教育活動や教員の研修等の連携を通じ、地域での一体的な教育に努める。更に高校の先生による出前授業等高等学校との連携等を推進する。	
◎ふるさと日野を愛し、地域社会とかかわるひのっ子の育成 【郷土教育、国際理解教育、奉仕活動（係活動の充実を含む）】 （ちょこっとボランティア活動の充実）	

I 学 校 運 営	1. 人の役に立つ喜びを感じる体験を豊かにさせる。生徒が地域を理解し大切にし、地域の役に立つことを通して生徒・保護者・地域が誇りをもち信頼される学校を創る。生徒会等生徒の主体的な取組を実現させるよう力を尽くす。 2. 生徒と接する機会を多く持ち、生徒と教師、生徒と生徒が相互に心が通い合う温かい人間関係を築く。 3. OJT 研修を充実させ、主幹教諭、主任教諭は企画・実践能力や指導性を高め、経験豊かな教員は経験値を有効に発揮し、チーム力の向上を目指す。報告・連絡・相談の徹底を通して危機管理に努める。 4. 小中学校で連携し、9年間を見据えた教育を実施する。(小・中連携教育の充実) 5. 健全育成を図るため学区内学校間、PTA、学校運営連絡協議会、育成会等との緊密な連携・協力を図る。 6. 学校だより&HP等で学校の取組みやよさを積極的に発信し、PR活動を強力に行う。 7. がんばルーム、地域とのつながりPT、学び方PT、障がい者理解教育(ひの社会教育センターとの連携)、認知症を知る講演会(地域包括センター)等を主体的に活動に取り組む。 8. 一人一人が働き方改革に取り組む。(教員の年次休暇取得を10日以上にする:トライ20!クリア15!)		
II 学 習 指 導	1. 基礎基本の徹底を図ると共に、学びに向かう力を育み、学び方を学ばせながら、言語活動の充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、思考力、判断力、表現力、読解力、コミュニケーション力・対話力の向上を図ると共に粘り強く取り組む意欲や困難を乗り越える力を高める。 2. 一人一台の端末を活用する授業等の充実、授業のUD化を図る。(分かる授業の実践)学習規律を徹底し、教員の本務である分かる授業、魅力ある授業、個に応じた学習能力を高める授業を目指し、ICTを効果的に活用した指導方法を実施する。 3. 教科道德の指導・評価計画に基づき、授業と評価を充実させる。家庭・地域と連携し道德教育の充実を図る。 4. 生きる力を育成するために、総合的な学習の時間や特別活動を活用し組織的、計画的な指導を実践する。(食育、健康教育含む)。総合的な学習の時間には、SDGsと関連させて探究的な学習を進める。 5. 家庭学習の在り方、内容を改善するための具体的な取組を行うと共に、放課後補習教室を適切に行う。		
III 生 活 指 導	1. 人権尊重の精神を基盤とした人権教育に取り組むと共に、生活指導的な問題を未然に防ぐために、時間を守る、主体的にあいさつをする、ルールを守るなど基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒が主体的に実践することができるようになるための指導の工夫を図る。礼儀、規範意識・遵法精神を育む。「ダメなものはダメである」の考えのもと毅然とした指導と共に粘り強い指導を行う。 2. 生活アンケートの活用や教育相談の充実を図り、いじめ予防・防止の取り組み、問題の早期発見・早期対応に努める。SOSを出すことができるように継続的に指導・助言する。保護者と連携・協力して指導を行う。 3. 関係機関と連携し実働・実践的な防災・避難訓練等防災・安全教育の充実を図る。活動の目標と評価を明確にして行う。「正解が一つでない時代を生きていくための意欲と態度、知恵」を身に付けさせ、生き残れる生徒、共助・公助に資する生徒を育成する。 4. 長期にわたり欠席が続く生徒やがんばルームに通室する生徒、特別に配慮を要する生徒への対応を組織的(学級担任、学年会、教育相談部会)に行うとともに、情報共有を確実にし、指導技術等の般化を図る。また、関係機関への適切なつながりを粘り強く行う。		
進 路 指 導	1. 職業を知る、職場体験等を含め 生き方教育としてのキャリア教育を充実 させる。(※望ましい職業観・勤労観及び職業に関する基礎的な知識や技能を身に付けさせる、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる) 2. 保護者会、三者面談等を活用して、進路に関する知識・情報を適切に提供し、生徒に自らの進路を適切かつ主体的に選択する能力を高め、生徒全員の進路決定実現に向けた適切な支援を行う。信頼を得る進路指導・支援を行う。		
IV 特 別 活 動 他	1. 入学式、卒業式、始・終業式等の儀式行事の厳粛な実施を通して、儀式への適切な態度及び愛校心を育てる。 2. 自己有用感や達成感を感得させ自分に自信をもたせる。 3. 生徒が目標を明確にした自立・自律的な生徒会活動等を行える能力を高める。ちょこボで「人の役に立てて嬉しかった」と感じる生徒数95%以上を実現し、人の役に立つ喜びを味わわせる活動の充実を図る。 4. 部活動では様々な試合やコンクール等に積極的にチャレンジさせ生徒に達成感・成就感を味わわせる。		
V 研 修 ・ 研 究	1. 校内研究は「個別最適な学び・協働的な学びの実現」を主題として授業改善・授業力向上を目指し実施する。各学期、講師を招聘して研究授業を行う。【重点事項】: 主体的・対話的で深い学び 【基本事項】: ①基礎基本と多様な学び②UD化③ICT活用 等 2. 校内における研修等に主体的に参加し、三沢中の教員としての共通した指導の方向性、指導方法を習得する。 3. 都や市、中教研等の研修会に積極的に参加し視野を広め、教職の専門性を高める。必ず伝達研修を行う。		
VI 服 務	◎教育公務員として職責の自覚を深め、遂行する。 ・サービス事項を守る。(教職員のサービスの厳正の周知徹底)	学 校 事 務	*学校備品の適正な管理や計画的かつ有効な学校予算の執行、適正・適時の学年会計報告 *備品台帳を中心に帳簿管理や物品管理の徹底 ○事故の未然防止のためWチェック機能を徹底